

（世界及日本図）

日本地図・世界地図屏風

概要

日本地図と世界地図を備えた二つの八曲屏風は、江戸時代（1603 年～1867 年）以前に制作された貴重な地図画の例の複製です。それらは、朝鮮半島や中国北東部、西ヨーロッパ、新世界などのような地域への地理の知識が劇的に拡大した時代を反映しています。この屏風は小浜の豪商の家に代々受け継がれ、日本と世界を結ぶ港町としての小浜の役割を反映し、国の重要文化財に指定されています。原品は当館蔵です。

もっと詳しく知る

16 世紀末に作られた珍しい地図

日本では江戸時代に多くの地図が制作されましたが、この装飾的な屏風に描かれた地図はそれよりも早く、16 世紀末に制作されたと考えられています。1 つは日本列島を描いており、もう 1 つはスペインやポルトガルの船乗りが使っていた地図をもとに世界全体を描いています。いずれの屏風も、幅約 3.8 メートル、高さ約 1.2 メートルです。地図の境界線や色、符号は、当時の地図製作者が日本と世界の地域をどのように理解していたかについての洞察を提供します。

二つの屏風の歴史

この屏風は京都で制作された可能性が高く、16 世紀末の日本の事実上の支配者であった豊臣秀吉（1537 年～1598 年）に近い大名がかつて所有していた可能性があります。屏風は最終的に小浜に持ち込まれ、成功した海運業を営んでいた裕福な商人だった川村家が代々所有していました。海岸沿いの町の商家がこのような優れた芸術作品を手に入れることができたという事実は、小浜の交易が盛んになったことで、商売人がいかに繁栄したかを物語っています。

展示品

日本地図の屏風には、青い海と金箔の雲に囲まれた日本が描かれています。九州や四国地方は本州南西部の中国・関西地方と同じく海岸線が忠実に再現されています。それに比べて、東北地方や日本のはるか北東にある北海道の海岸線は、かなり不正確です。

もう一方の屏風には、楕円形の世界地図が描かれています。中央の帯は赤道を表し、経度 10 度ごとに赤いマークで区切られています。当時の地図製作者の解釈に従って、地域を表すのにさまざまな色が使用されています。日本地図と同様に、現代の地図に非常によく似た方法で描かれている地域もあれば、かなり不正確な地域もあり、異なる大陸に関する当時の知識と記録にむらがあったことを示しています。地図の周囲の屏風の表面は金箔で覆われており、海の深い青とのはっきりとしたコン

トラストを生み出しています。